

## フタスジチョウ



支笏湖国有林「烏柵舞の森」で午前中に予定していた仕事を終えて、昼食場所に来ましたが、少し時間が余っていたので、林縁沿いの作業道で自然観察をしていました。そこで出会ったのがフタスジチョウでした。ズームアップしたにしてはピントがまずまずでそれと識別できる映像をゲットしました。記録には 2015 年 6 月 25 日 10 時 51 分と記録されました。

フタスジチョウはタテハチョウ科ですが、これまで紹介したエルタテハやコムラサキなどの正統派(?)のタテハチョウたちとは違う飛び方をします。近縁のコミスジなどと同様に忙しく羽ばたくのではなく、しばしば気取った感じで滑空したりします。スピードも速くはないのですが、警戒心が強くてカメラのファインダーの芯で捉えるのはなかなか出来ませんでした。

表翅は黒地に白模様ですが、裏翅はこげ茶地に白模様が裏抜けしています。越冬態は 3 齢幼虫とのこと。発生は年 1 回、6 ~7 月に見ることができます。幼虫の食草はバラ科のユキヤナギやシモツケ類など。分布は北海道全域、内地では岩手、北関東地方、中部地方では標高の高い山地とされています。内地ではスポット的な分布のようです。



「烏柵舞の森」は当協会の横山理事長が傘下に治める北海道シージーシーがオールジャパンシージーシーと共に、国有林に協力して 2004 年の 18 号台風による大規模な風倒木地の復興事業の場所の 1 つで 22 ヘクタール余りの広さなので、この日の草刈は所持している草刈機 10 台を総動員する他に長柄の手鎌グループと区域わけしての人工植栽部分のメンテでした。6 月下旬にしては曇り空で夜には霧雨が降ったようで、草も樹も夜露に濡れて、水滴がついていましたので、

涼しく、汗もかかない快適な環境でした。ミズナラの植栽幼樹や若い樹にマイマイガの毛虫が群がり、見つけ次第退治しましたが、こいつらが悪さをするので、成長がいちぢるしく妨げられていることを実感しました。

2012 年、着手最初のシージーシーグループのお歴々お手植えのアカエゾマツは 3 年を経過して順調に育っています。根が肥沃土に届く 2~3 年後になりますと、急に伸びはじめますのでご期待下さい。

